

## 城崎国際アートセンター

## 「2019(平成 31)年度アーティスト・イン・レジデンス プログラム」選考結果

2019年度の公募では、前年度から応募総数は若干減少しましたが、それでも例年を上回る68件(20か国)の応募があり、波及力、国際性、地域性、革新性、将来性の観点で選考を行い、プログラムの多様性と全体のバランスも考慮し、17件を採択しました。

城崎国際アートセンター(KIAC)の役割は、優れたアーティストや将来性のあるプロジェクトに創作環境を提供することによって世界の舞台芸術の発展に貢献することと、豊岡の皆さんに多様な芸術活動に触れていただく機会を創出することによって地域の文化振興に寄与することにあります。

開館6年目となる来年度も、世界中から優れたアーティストやプロジェクトに滞在していただけのことになりました。

以下に2019年度のプログラムの選考と特徴について記します。

**●波及力**

波及力の観点では、オーストラリアの振付家で映像作家のスー・ヒーリーによる「ON VIEW」プロジェクト(愛知県芸術劇場と横浜赤レンガ倉庫による国際共同製作)や振付家の余越保子によるアーティストの芸の継承をテーマにしたダンス作品『shuffleyamamba』をはじめ、快快、柴幸男、西尾佳織、小尻健太×アルディッティ弦楽四重奏団、烏丸ストロークロックらの、主に滞在制作後の公演や発表を想定したプロジェクトを採択しています。

**●国際性**

台湾のアーティスト Val Lee らによるマルチメディア・パフォーマンス『VX』、イタリアの劇団「テアトロ・インプロヴィーゾ」とフランスの劇団「セマフォー」の国際共同製作による子供向け舞台作品『ファンタスティック! (仮)』といったプロジェクトを受け入れ、国際的なレジデンス施設としての役割を果たしていきます。

**●将来性**

森下真樹、青木尚哉といった、すでに一定の経験と実績のある振付家が公募で集まったダンサーとともに取り組む「森下スタンド」や「青木尚哉グループワークプロジェクト」。作曲家・劇作家・演出家の額田大志が主宰するミニマルバンド「東京塩麴」が舞台芸術のアプローチから新たな音楽メソッドの構築を目指すプロジェクトは、KIACでの滞在制作を通じてカンパニーのさらなる発展に期待しています。

**●革新性**

劇作家・演出家の岩井秀人が自身の過去作のミュージカル化に取り組む試み、舞踏家の向雲太郎が「舞踏とは何か」を問うレクチャーパフォーマンス、アーティストの田村友一郎が美術と舞台芸術の領域を横断し、上演芸術の展示の可能性を模索するプロジェクトは、各アーティストが既存の表現分野の枠組みを超え、新たな表現を模索しようとする革新性の点を評価しています。

**●複合的な分野**

振付家・ダンサーの湯浅永麻とファッションデザイナーの廣川玉枝による「キアスマ」プロジェクトや、音楽家、ファッションデザイナー、照明作家による「仕立て屋のサーカス」が、様々なジャンルのアーティストをゲストに迎えるプロジェクトなど、複数の分野にまたがる領域横断的なプロジェクトにも門戸を開いています。

**●継続性のある支援**

加えて、これまでにKIACで滞在制作を実施したプロジェクトを発展させ、成果発表として公演などを控える、余越保子、西尾佳織、青木尚哉、田村友一郎らの滞在制作を再び受け入れることで、可能な範囲で継続性のある支援にも取り組んでいきます。

以上、来年度も引き続き当館の事業へのご理解とご協力をよろしくお願いたします。